

敷島南小学校 学校関係者評価書（後期）

平成22年2月8日（月）

敷島南小学校 学校関係者評価委員会作成

第2回 学校関係者評価委員会

実施日：平成22年2月5日(金)午後7：00～8：30

会場：敷島南小学校多目的室

参加者：(学校関係者評価委員)

学校評議員：穴見弘幸，山口正智，由井英子，中込正久，小林 一

P T A 副会長：石川木綿子，山田淳子

(学校側)

校長：飯室文雄，教頭：井上由久，教務主任：丸茂和也

(欠席者)長田明美，長田孝子

学校側から提案された内容

自己評価結果及び児童・保護者アンケートの結果に基づく今後の方針について

推進継続していきたい事項

- ・学校経営方針に基づいた教育実践
- ・学びの意欲を喚起し，個に応じた授業の実践
- ・読書活動・国語力向上への取り組み

確認や修正をしながら推進継続していきたい事項

- ・地域人材や施設の活用，及び教育活動の保護者や地域への積極的発信
- ・PDCA サイクルを生かした教育活動の推進
- ・児童と職員の信頼関係，保護者や地域の理解を深める取り組みを通しての教育活動の推進
- ・生き方教育（キャリア教育，進路指導など）の指導の充実

改善していきたい事項

- ・防災・防犯訓練など危機管理に関する実践的な取り組みの一層の充実
- ・福利厚生や健康管理への配慮

協議された主な内容

生き方教育の充実を図ること。

質問) 経済状況の悪化等により，心の「ゆとり」のなさが原因であろうか，家庭でのコミュニケーション不足を強く感じる。学校では，生き方教育をどんな内容で行っているのか？

回答) 身近な大人など，人との関わりが子どもの生き方に大きく影響する。学校においては，校外学習や社会科見学や，花や野菜や米作り，草取りなどの勤労生産活動などの体験的な学習を重視して取り組んでいる。また，地域の人材を活用したり，地域の人々との交流する「南小まつり」の学校行事も行っている。これらにより様々な人との交流を通して，生き方教育の充実を図るよう努めているところである。

意見) 教職員一人一人が，生き方教育の重要性を認識し教育活動を推進するよう努めていくことが求められる。

危機管理に関する意識・実践力の向上に努めること。

意見)「安全・安心」は学校教育を推進する上で、最も重要なことである。先の児童虐待の事件は聞くに堪えない。学校としてどう対応するかは極めて重要である。学校教育の要である教職員一人一人が、危機管理についての意識や実践力を高めていくことが常に求められている。

教職員間の信頼関係を深めること。

質問)教職員間の信頼関係で課題点はあるのか？

回答)昨年度末の人事異動により、長年本校に勤務していた学年主任や中堅の教職員が異動になるなど人員構成が変わっている。新しく赴任した教職員にとっては、特にはじめの1年はとまどうことも多い。職員間の信頼関係も新たに築いていく段階でもあるが、職員会議や学校行事、学年行事などを通して着実に信頼関係を深めているところである。一方、新しい職員は、学校に新たな風を吹き込み学校の課題点を指摘し改善策を示すなど新陳代謝を促進する役割も果たしている。今後、さらに職員同士が活発にコミュニケーションを図れる職場づくりを進めていきたい。

意欲ある子どもの育成に一層主眼を置いて教育活動を行うこと。

意見)アンケート結果によると、全体の傾向として肯定的な回答の割合が高い。特に問題がないといえ、素直な子どもたち、という感じを受ける。しかし、羽目を外すといったバイタリティー、ガッツが見えてこない。本当のやる気、意欲を引き出す、目を輝かせるような教育の実現こそ、大きな課題ではないだろうか。このことは、本校だけでなく、日本全体の課題でもある。

読書活動について一層の推進を図ること。

意見)本校の特色として読書活動を推奨しているということがある。自分の考えが言えるためには、読書活動が大切である。これからも一層、読書活動の充実を図ってほしい。

地域で子どもを育てること。

意見)地域に様々な技能を持つ人達がいる。自治会で地域に住む人から特技のある人を発掘し、この人達を生かしていくつかの活動を計画した。多くの子どもたちが参加し、楽しい活動の機会をつくることができた。大人と子どもとの交流の場ともなり、有意義な取り組みにすることができた。これから、このような活動を続けていきたい。学校においても、身近な地域から様々な特技をもつ人々を活用するような取り組みをこれからも推進してほしい。あまり大げさにせずに、ちょっと応援に来てもらうというような感じで進められるといいと思う。

その他

- ・アンケートは、全体の傾向から課題をとらえることと併せて、一人一人に目を向けて、その子がなぜそのような回答をしているのかを理解し改善し生かすことが大切である。
- ・音楽集会や南小まつりなど、本校の特色ある活動に、地域の方々が多数参観にきている。地域とつながりのある活動を今後も大切にしていってほしい。

< 学校関係者評価書 >

全体評価

日頃の教育活動の実践に対する評価は、おおむね良好な水準にある。

学校教育目標を見据えた計画に基づき、評価を生かした教育活動を展開している。

- ・ 学びの意欲を喚起した授業が推進されている。
- ・ TT指導や少人数指導など個に応じたきめ細やかな授業が推進されている。
- ・ 校内研究を中心に、伝え合う力を育成するための教育実践が推進されている。

特色ある教育課程の編成と実践に取り組んでいる。

- ・ 朝活動や国語の時間を中心に読書活動を重視した取り組みが推進されている。
- ・ 音楽集会、吹奏楽など音楽活動を重視した取り組みが推進されている。
- ・ 地域人材を活用した授業や、施設を活用しての体験的な学習を取り入れた取り組みが推進されている。

職員間の相互理解や信頼関係を深めることが大切であるとする意識が高い。

- ・ この意識を大切にしながら、職員一人一人に目を向けて適切な働きかけやコミュニケーションに一層留意していくことが求められる。

学校生活や授業への満足度が高い児童が多い。

- ・ さらに、達成感が得られる体験や活動を工夫していくことが求められる。

保護者の学校への信頼度が比較的高い。

課題として

- ・ 学校から、保護者や地域へ情報を発信していくとともに、逆に地域や保護者から学校へ情報を発信してもらうように 双方向性をめざした取り組みが求められる。

特 徴

教職員の自己評価より

第1回に比べ、ほとんどの項目について肯定的な回答の割合が高くなっており、肯定的回答が100%となっている項目も多い。より良好な教育活動が展開されていると判断できる。一方、項目によっては否定的な回答もある。それらに回答を一つ一つ吟味し、その原因を分析し、改善に努め、そのための体制・組織づくりを工夫していくことが期待される。

児童のアンケートより

第1回と比べ肯定的な回答が増えている項目が多く、より好ましい状況になっており、よい学校生活が送れていると判断できる。一方、少数ではあるが否定的な回答をしている児童もいる。児童一人一人に目を向けたきめ細かな指導を一層重視するとともに、児童理解に努めた教育活動を行っていくことが期待される。

保護者へのアンケートより

全体的に好ましい回答の割合が高く、学校が信頼されている度合いが高いと言える。昨年度のアンケートと比較して、学校評価についての理解も増えているので、今後さらに理解が深まるように様々な機会を生かして学校の教育活動について保護者、地域に説明・発信していくことが期待される。

責任者 甲斐市立敷島南小学校 学校関係者評価委員 長田明美